改訂版『English Communication Ⅱ』（高等学校外国語科用 文部科学省検定済教科書）の研究

津　村　敏　雄

要　旨

高等学校の「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業においては，平成30年４月から使用が開始されている改訂版の教科書『English Communication Ⅱ』が使われている。今回の改訂版の教科書は，現行の高等学校学習指導要領（平成21年３月告示）の下で編集・検定・採択・使用される最後の教科書となるのだが，編集から使用までの４年間を次期の高等学校学習指導要領（平成30年３月告示）の改訂作業（諮問，審議会，答申，告示）と並行して作成された教科書である。そこで，本稿では，平成26年４月から平成30年３月まで使用された旧版の教科書と，平成30年４月から新しく使用されている改訂版の教科書を資料に用いて，旧版と改訂版にはどのような変化（次期の高等学校学習指導要領の改訂作業の影響を含む）があるのか否かに関する分析を試みた。分析結果から，CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）やCAN-DO形式による学習到達目標の明示，スピーキングを重視した技能統合型活動による言語活動，アクティブ・ラーニングによる主体的・対話的で深い学びなど，次期学習指導要領を見据えた創意工夫に富んだ教科書づくりが積極的に行われていることが明らかになった。

Ⅰ．はじめに

教科書の作成から使用に至るまでには４年間の歳月を要する。まず，１年目は出版社（発行者）が教科書の著作・編集の作業を行う。２年目は作成された教科書に対して文部科学省の調査審議会による検定が行われる。３年目は検定を合格した教科書の中から公立学校は教育委員会が，国立・私立学校は校長が使用する教科書を採択し，その需要を受けて出版社が供給の準備をする。そして，翌年度の４年目の新年度から新しい教科書の使用が開始されるという４年間で巡回する仕組みになっている。平成30年４月から，主として高等学校２年次の英語の授業として開設されている「コミュニケーション英語Ⅱ」において，改訂版の検定教科書『English Communication Ⅱ』が使われている[(1)]。この改訂版の教科書の使用開始直前となる平成30年３月に，次期「高等学校学習指導要領」が告示されたことにより，今回の改訂版の教科書が現行の高等学校学習指導要領（平成21年３月告示）の「コミュニケーション英語Ⅱ」の下で編集・検定・採択される最後の教科書になる。高等学校学習指導要領の改訂作業の経緯は，平成26年２月に文部科学大臣による諮問，（同年２月に英語教育の在り方に関する有識者会議が発足），平成27年８月に中央教育審議会（初等中等教育分科会）の教育課程部会の教育課程企画特別部会による報告（「論点整理」），平成28年８月に中央教育審議会（初等中等教育分科会）の教育課程部会による報告（「審議のまとめ」），平成28年12月に中央教育審議会による答申（「幼

稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」），平成30年３月に文部科学大臣による告示（次期「高等学校学習指導要領」）となっており，改訂版『English Communication Ⅱ』の編集から使用までの４年間と機を同一にしている[(2)]。答申に至るまでの学習指導要領の改訂に向けた中央教育審議会の教育課程部会の外国語ワーキンググループなどでの議論の方向性や審議の内容が，同時期に作成している改訂版の教科書の編集に影響を及ぼし得ると推察される。そこで，本稿では，平成26年４月から平成30年３月まで使用された旧版の『English Communication Ⅱ』と平成30年４月から新しく使用されている改訂版の『English Communication Ⅱ』を資料として，どのような変化が見られているのかの分析を試みる。

Ⅱ．研究目的と分析方法

本研究の目的は，平成30年４月から高等学校の主として２年次に新しく使用されている教科書『English Communication Ⅱ』（以下，「改訂版（平成30年）」とする）と，平成26年４月から平成29年３月まで高等学校の主として２年次に使用されていた教科書『English Communication Ⅱ』（以下，旧版（平成26年）とする）を，編修方針，製本仕様，構成内容などの観点から比較分析を試みることにある。まず，発行されている教科書の種類を概観しておくと，改訂版（平成30年）『English Communication Ⅱ』の教科書は31種類（13社）となっている。中学校の英語教科書が６種類（６社）に限られているのに対して，高等学校の英語教科書の種類が豊富なのは出版社の裁量で初級者用から上級者用まで複数の教科書を作成することが認められているからである。具体的には，13社のうち，３つのレベルの教科書を作成している出版社が７社，２つのレベルの教科書を作成している出版社が４社，１つのレベルの教科書を作成している出版社が２社となっている。このうち，本研究での分析に用いた教科書は，分析順に，『Power On! English Communication Ⅱ』（東京書籍），『UNICORN English Communication 2』（文英堂）[(3)]，『ELEMENT English Communication Ⅱ』（啓林館），『POLESTAR English Communication Ⅱ』（数研出版），『CROWN English Communication Ⅱ』（三省堂）の改訂版（平成30年）と旧版（平成26年），５種類10冊の教科書である。

Ⅲ．分　析

１．『Power on! English Communication Ⅱ』（東京書籍）

改訂版（平成30年）の編修方針は，旧版（平成26年）を踏襲して，「グローバルな舞台で活躍するために必要とされる，英語力を身につけられる教科書」を趣意とし，「『聞く・話す・読む・書く』の４技能を総合的に育成する」，「教えやすく，学びやすい構成とする」，「国際社会に通じる発信力や思考力を高められる題材を扱う」を基本方針としている。改訂版（平成30年）では，「教えやすく，学びやすい構成とする」がさらに強化されて，教科書の前半部と後半部にテーマを設置して，前半部のLesson 1～Lesson 4は「See the world through familiar things」というテーマで「コミュニケーション英語Ⅰ」で学んだ既習事項の振り返りを中心に行い，後半部のLesson 5～Lesson10は「See the world from global perspective」というテーマで「コミュニケーション英語Ⅱ」の新出事項を重点的に学ぶこ

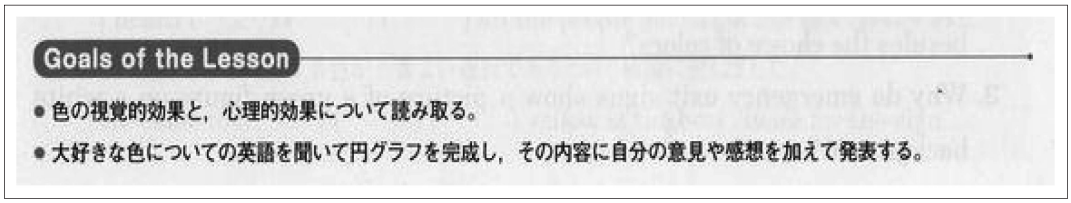
とで，学年進級時の初期段階における円滑な学習が行えるように工夫されている。

製本仕様は，改訂版（平成30年）の判型が定形Ｂ５判（縦26cm×横18.5cm）となり，旧版（平成26年）の変形Ｂ５判（縦23cm×横17cm）から大型化されたことに合わせて，フォントのサイズも大きくなり読みやすい紙面に改良されている。頁数は，旧版（平成26年）の175頁に対して改訂版（平成30年）は９頁増加して184頁となっている。本課（Lesson）と課外の読み物（Reading）の数は，改訂版（平成30年）の本課（Lesson）が10課，課外の読み物（Reading）が２つとなっており，旧版（平成26年）と比べて増減はなかった。なお，本課（Lesson）の７つと読み物（Reading）は２つとも新しい教材に差し替えられており，題材の大幅な刷新が行われている。

本課（Lesson）の構成は，旧版（平成26年）では，「写真」（導入・リスニング）→「本文（Part 1～Part 3/Part 4）」（リーディング）→「Reading Comprehension」（Partの内容理解）→「Grammar」（文法解説）→「Practice」（文法演習）→「The Next Step」（スピーキング）→「Review」（全体の内容理解）→「Reading Aloud」（要約完成・音読［リーディング］）→「Sound」（発音解説）→「Challenge!」（スピーキング/ライティング）→「Your Navigator」（豆知識）であったが，改訂版（平成30年）では，「写真」（導入）→「Goals of the Lesson」（到達目標：CAN-DO）→「本文（Part 1～Part 3/Part 4）」（リーディング）→「Task 1, Task 2」（Partの内容理解）→「Plus One」（スピーキング）→「Grammar」（文法解説）→「Practice」（文法演習）→「Summary」（要約完成・暗唱［スピーキング］）→「Exercises」（総合演習）→「Challenge!」（リスニング・ライティング・スピーキング）となっており，Partの内容理解が「Reading Comprehension」が「Task 1, Task 2」に改編された。

大きな変更点は，新規にCAN-DO形式の「Goals of the Lesson」（到達目標）が各課（Lesson）の最初のページに掲げられており，各課（Lesson）で学習すべき目標が明示されたことである。例えば，Lesson 7「The Power of Color」の「Goals of the Lesson」には，「色の視覚的効果と，心理的効果について読み取る。」と「大好きな色についての英語を聞いて円グラフを完成し，その内容に自分の意見や感想を加えて発表する。」の２つのCAN-DOがLesson 7の到達目標としている（図１，資料１）。

図１　改訂版『Power On! English Communication Ⅱ』Goals of the Lesson



（出所）浅見道明 編(2018)『Power On! English Communication Ⅱ』，p.91

なお，「Challenge!」は，旧版（平成26年）では課ごとにスピーキングもしくはライティングのいずれかのみを行う言語活動だったのに対して，改訂版（平成30年）では毎回の課でリスニング・ライティング・スピーキングの順に各技能を関連付けながら総合的なコミュニケーション活動を行えるよう

に工夫されている。また，本文の内容理解が従来型のＱ＆Ａ形式による英問英答（旧版の「Reading Comprehension」，改訂版の「Task 1」）に加えて，新たにダイアログ形式による内容理解の「Task ２」が追加されたこと，自由な自己表現活動を行う「Plus One」（スピーキング）が新たに設置されたこと，要約完成の「Summary」の部分を拡張させていることである（図２）。旧版（平成26年）では，「Summary」の指示文が「答え合わせをした後に音読しましょう。」と「音読」に留まっていたのが，改訂版（平成30年）では指示文が「答え合わせをした後に暗唱しましょう。」と「暗唱」に改められており，リーディングからスピーキングへと繋げる統合型な言語活動に強化されている。

図２　改訂版『Power On! English Communication Ⅱ』Summary

Summary

1. 本文の内容に合うように，下線部を埋めましょう。

Part 1	・警告標識には赤色や黄色がよく使われます。その理由は，鮮やかで暖かい色は人々の＿＿＿＿＿を引くからです。 ・色の＿＿＿＿＿も明確にすばやくメッセージを伝えるのに重要な役割を果たしています。
Part 2	・色の効果は視覚的だけでなく＿＿＿＿＿でもあるため，さまざまな理由で企業に利用されます。 ・たとえば，金色は商品に「＿＿＿＿＿」や「特別」というような肯定的な印象を与えます。
Part 3	・企業は自社のロゴの主要な色を決めるとき，色が伝える影響と＿＿＿＿＿を考慮します。 ・＿＿＿＿＿を設置したスコットランドのグラスゴー市では，路上の犯罪が減少しました。
Part 4	・色の選択は，あなたの部屋によい＿＿＿＿＿を作り出すときにも応用できます。 ・インテリアデザイナーは，＿＿＿＿＿によって異なる色を選択することを提案します。

2. （　　）内に入る語を下から選び，本文の要約を完成しましょう。答え合わせをした後に暗唱をしましょう。

Colors have visual effects on us. Vivid and (①　　) colors are used for warning signs because they catch people's (②　　).

Colors also have psychological effects. For example, companies use these effects to attract (③　　). In addition, they consider the impact and image the color conveys when they (④　　) the main color of their logos.

The choice of colors can be applied to creating a good atmosphere in your room. For example, if you want to feel (⑤　　) and clean, white is good.

[attention / choose / customers / refreshed / warm]

（出所）浅見道明 編(2018)『Power On! English Communication Ⅱ』，p.100

2．『UNICORN English Communication 2』（文英堂）

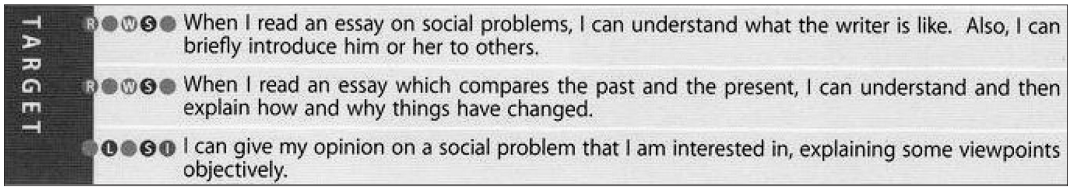
改訂版（平成30年）の編修方針は，旧版（平成26年）の方針を引き継ぎ，「過去と現在を深く見据え，調和のある未来への視座を培うこと」を趣意とし，「共生」（不当な人種差別により過酷な運命をたどった人の伝記や，貴重な動植物をめぐる環境問題を通じて，他者とともに生きることの大切さを学ぶ），「探求」（ふだん触れることのないような事物や未知の学問領域を通じて，知らないことを知る喜びを体験する），「夢」（紆余曲折を経て，自分のやりたいことを見つけた人たちの体験を読んで，未来に向かって希望を持つことのすばらしさを学ぶ）をテーマとする題材で，多様なものの見方や考え方を育み他国の文化を尊重するグローバルな視野の獲得を目指すことを基本方針としている。

製本仕様は，改訂版（平成30年）の判型は旧版（平成26年）と同じサイズとなっており変形Ｂ５判（縦23cm× 横17cm）だが，頁数は旧版（平成26年）の294頁に対して改訂版（平成30年）は207頁となり87頁も減少している。これは，本課（Lesson）の数が旧版（平成26年）の12課から改訂版（平成30年）では10課に，読み物（For Reading）が旧版（平成26年）の２つから改訂版（平成30年）では１つと削減されたことが要因である。なお，改訂版（平成30年）の本課（Lesson）10課のうち７課と読み物（For Reading）が差し替えられていて内容が刷新されている。

本課(Lesson)の構成は，旧版(平成26年)では，「WARM-UP」(導入・リスニング)→「本文（Part 1～Part 4)」（リーディング）→「COMPREHENSION」（内容理解）→「LANGUAGE FOCUS」（文法解説演習）→「PHRASE QUIZ」・「EXPRESS YOURSELF」（語彙・表現）→「SUPPLEMENTARY READING」（補充読解）であったが，改訂版(平成30年)では，「WARM-UP」（導入・リスニング）→「TARGET」(到達目標：CAN-DO)→「本文(Part 1～Part 4)」(リーディング)→「COMPREHENSION」（内容理解）→「COMMUNICATION」（リスニング・スピーキング）→「VOCABULARY」（語彙）→「LANGUAGE FOCUS」（文法解説演習）となっている。

大きな変更点は，新規にCAN-DO形式の「TARGET」（到達目標）が設置されて学習目標を明示したことである（図３）。「TARGET」（到達目標）には，習得の目標としている能力として，４技能の「Reading：読む活動」には「R」，「Listening：聞く活動」には「L」，「Writing：書く活動」には「W」，「話す活動」には「W」，さらに，「双方向の活動：Interaction」には「I」のマークが付与されている。

図３　改訂版『UNICORN English Communication 2』TARGET

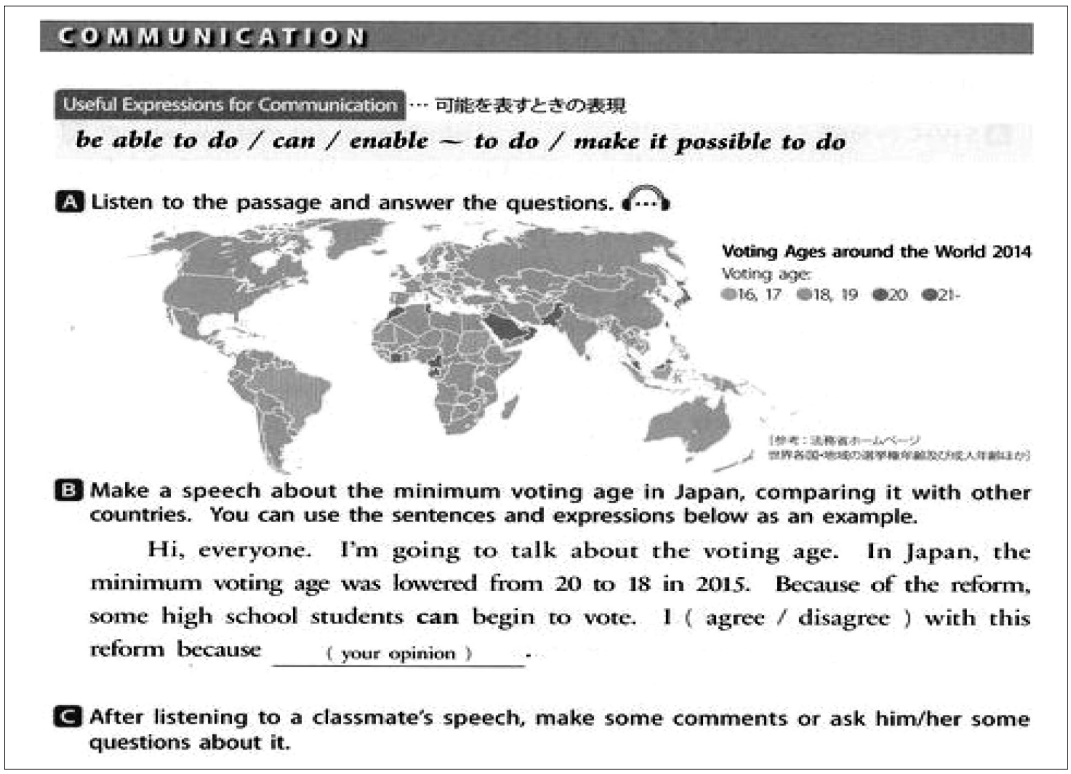


（出所）市川泰男・高橋和久 編(2018)『UNICORN English Communication 2』，p.24

また，１ページに集約されていた「PHRASE QUIZ」・「EXPRESS YOURSELF」（語彙・表現）を，「VOCABULARY」（語彙）と「COMMUNICATION」（表現）に改編して独立したページで扱うこと

になり，それぞれの内容が拡充されている。例えば，「VOCABULARY」には，新たに英英辞典の形式で各課に出現した重要語の意味を英英定義で表現して，類義語，反意語，コロケーションの用例も提示することで，英語を英語で理解させる工夫が図られている。また，表現活動の「COMMUNICATION」には，ブレーンストーミング，本文に関するトピック，さらには自由な自己発信活動を行うことで，コミュニカティブな活動を行うように改められている（図４）。

図４　改訂版『UNICORN English Communication 2』COMMUNICATION


COMMUNICATION

Useful Expressions for Communication … 可能を表すときの表現

be able to do / can / enable ～ to do / make it possible to do

A Listen to the passage and answer the questions.

B Make a speech about the minimum voting age in Japan, comparing it with other countries. You can use the sentences and expressions below as an example.

Hi, everyone. I'm going to talk about the voting age. In Japan, the minimum voting age was lowered from 20 to 18 in 2015. Because of the reform, some high school students can begin to vote. I (agree / disagree) with this reform because (your opinion).

C After listening to a classmate's speech, make some comments or ask him/her some questions about it.

（出所）市川泰男・高橋和久 編(2018)『UNICORN English Communication 2』，p.33

３．『ELEMENT English Communication Ⅱ』（啓林館）

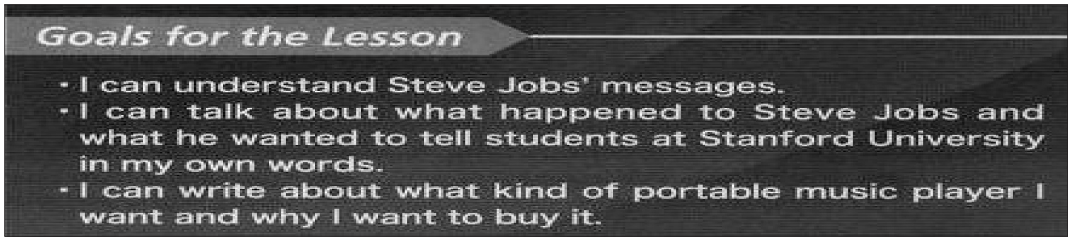
改訂版（平成30年）の編修方針は，旧版（平成26年）に引き続き，「日々の授業を通して，生徒１人１人に確かな英語力が身につく教科書」を趣意として，「教師にとって教えやすく，生徒にとって学びやすい教科書とする」，「難易度や構成に配慮し，幅広い層の生徒に受け入れられる教科書とする」，「題材を通して，生徒の学力向上や精神的な成長に寄与できる教科書とする」，「古今東西の話題から生徒が積極的に接することができる題材を厳選して提示し，それらを通じて教育の目標達成に寄与する教科書とする」を基本方針としている。題材の選定方針としては，「生徒が積極的に英語に接し，自ら英語で表現できるようになるように，題材には生きる目標・指針を考える機会を与えるようなものや，あまり知られていない事実や新しい発見に触れて考える機会を与えるもの」としている。

製本仕様は，改訂版（平成30年）の判型は変形Ｂ５判（縦26cm×横18.5cm）で，旧版（平成26年）と同じであるが，頁数は，旧版（平成26年）の191頁に対して，改訂版（平成30年）では223頁となり32頁も増加している。本課（Lesson）と課外の読み物（Further Reading, Pleasure Reading）の数については，旧版（平成26年）は本課が10課，読み物が４つであったが，改訂版（平成30年）も本課の数は10課で増減なしであるものの，読み物は３つになり１つ削減されている。

本課（Lesson）の構成は，旧版（平成26年）では，「写真・Brainstorming・Keyword Checker」（導入・語彙）→「Graphic Introduction and Retelling」（導入・リテリング）→「本文（Part 1～Part 4）」（リーディング）→「Comprehension」（内容理解）→「Vocabulary」（語彙）→「Grammar and Structure」（文法解説演習）→「Listening Practice」（リスニング）であったが，改訂版（平成30年）では，「写真・Leading In・Sharing Ideas」（導入・リスニング・スピーキング）→「Goals for the Lesson」（到達目標：CAN-DO）→「Graphic Introduction and Retelling」（導入・リテリング）→「本文（Part 1～4）」（リーディング）→「Comprehension」（内容理解）→「Vocabulary」（語彙）→「Grammar and Structure」（文法解説演習）→「Communication Activity」（リスニング・スピーキング）となり，「Listening Practice」が「Communication Activity」に強化されている。

大きな変更点は，新規にCAN-DO形式の「Goals for the Lesson」（到達目標）が各課の最初のページに明示されたことである。例えば，Lesson 2の「Stay Hungry, Stay Foolish」の「Goals for the Lesson」には，「I can understand Steve Jobs' messages.」，「I can talk about what happened to Steve Jobs and what he wanted to tell students at Stanford University in my own words.」，「I can write about what kind of portable music player I want and why I want to buy it.」を掲げている（図５）。

図５　改訂版『ELEMENT English Communication Ⅱ』Goals for the Lesson



（出所）卯城祐司・磐崎弘貞 編（2018）『ELEMENT English Communication Ⅱ』，p.31

さらに注目すべきは，改訂版（平成30年）の巻頭部分に「Self-Evaluation Grid」が新設されたことである（図６，資料２）。これは，CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）によるコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格の指標である[(4)]。「Communication Builder」の頁で，Listening, Reading, Speaking（Interaction），Speaking（Production），Writingの４技能５領域の到達度の測定を生徒が自分で行える教科書の自習用の部分として，見開き２頁の問題と見開き２頁の解答・解説の合計４頁を１セットとして，「Communication Builder 4（Level：Ａ2）」，「Communication Builder 5（Level：Ｂ1）」，「Communication Builder 6（Level：Ｂ1）」を設置している（資料３，資料４）[(5)]。

図６　改訂版『ELEMENT English Communication Ⅱ』Self-Evaluation Grid（抜粋）

Self-Evaluation Grid (CEFR)

▶ CEFR とは、Common European Framework of Reference for Languages の略称で、語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格として、欧米で幅広く導入されつつあります。

		Basic User		Independent
	段階	A1	A2	B1
UNDERSTANDING	Listening	▶ ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や家族、身の回りの事柄に関連した日常の身近な単語や基本的な言い回しを理解することができる。	▶（自分自身や家族の情報、買い物、地元の地域、学校などの）非常に身近な事柄に関する表現や、高い頻度で使用される語彙を理解することができる。 ▶ 短く、明瞭で簡単なメッセージやアナウンスの要点を理解することができる。	▶ 学校や余暇などで扱われる、なじみのある話題について、はっきりと標準的な話し方で話された内容の要点を理解することができる。 ▶ 時事問題や個人的に興味のある話題について、比較的ゆっくり、はっきりと伝えられれば、ラジオやテレビ番組の内容を理解することができる。
	Reading	▶ 掲示やポスター、カタログの中にある、なじみのある名前やことば、非常に簡単な文を読み、理解することができる。	▶ 非常に短くて簡単な文章を読むことができる。 ▶ 広告や説明書、メニュー、時刻表など、簡単で日常的なものであれば、具体的で予測可能な情報を見つけることができる。 ▶ 短くて簡単な、個人的な手紙の内容を理解することができる。	▶ 非常に頻繁に使用される日常語や、仕事に関連する語で書かれた文章を理解することができる。 ▶ 個人的な手紙の中に書かれている出来事、気持ち、願いなどを理解することができる。

（出所）卯城祐司・磐崎弘貞 編(2018)『ELEMENT English Communication Ⅱ』，p.4

この他，各課（Lesson）の間に差し込まれているコーナーについては，旧版（平成26年）では「Communication Strategy」,「Listening Skill」,「Reading Skill」と３つに分割されていたが，改訂版（平成30年）では「Communication Tip」と「Communication Builder」に集約されている。

さらに，改訂版（平成30年）の巻末には,「Useful Expressions for Debate」（立論・質疑応答・反駁で役立つ表現）と「New Words & Phrases」（新出単語の英英定義）を掲載するなど，ディベートや速読に役立つものが収録されている。

４．『POLESTAR English Communication Ⅱ』（数研出版）

改訂版（平成30年）の編修方針は,「新時代を見据え，コミュニカティブな資質・能力を育む」を趣意として,「グローバルな視点を身に付けさせる題材で主体性・協働性を育成する」,「４技能の評価が可能な構成で知識・技能を習得する」,「リテリングなどで発信力を養うことで思考力・判断力・表現力を養成する」を基本としている。そして,「多様な言語活動を通して，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し，情報や考えを的確に理解し，英語で自分の考えを適切に伝える能力を伸ばすことができるように配慮すること」を最大の目標としている。また，世界の事柄や環境問題に広く目を向けると同時に，日本の文化や伝統にも造詣を深められるように，バラエティに富んだ題材をバランスよく選んでいる。

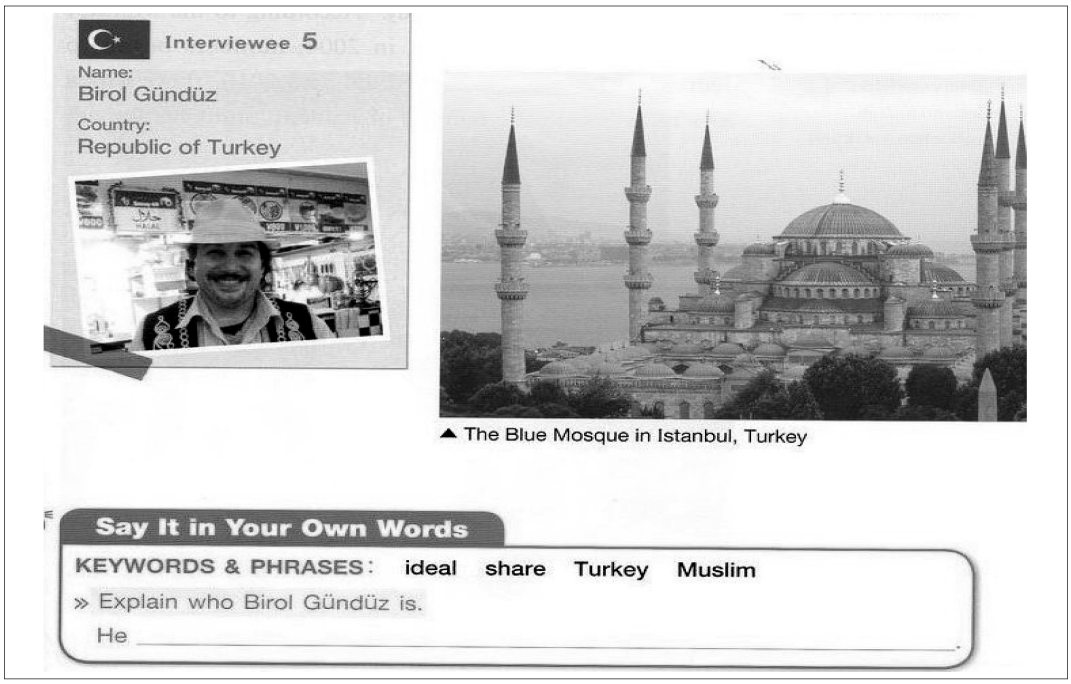
製本仕様は，改訂版（平成30年）の判型が変形Ｂ５判（縦23cm× 横17.5cm）となり，旧版（平成26年）の変形Ｂ５判（縦21cm× 横15cm）から大型化している。頁数は，旧版（平成26年）の207頁

に対して改訂版（平成30年）では199頁となり8頁の減少となっている。本課（Lesson）と課外の読み物（Optional Lesson, Further Reading）の数は，本課（Lesson）は旧版（平成26年）も改訂版（平成30年）もともに10課で増減なしだが，読み物は旧版（平成26年）の3つから改訂版（平成30年）では2つとなり減少している。なお，改訂版（平成30年）の本課（Lesson）のうち5課が新しい教材に差し替えられているが，読み物の教材は同じである。

本課の構成は，旧版（平成26年）が「写真・Pre-Reading Questions・Let's Talk!」（導入・リスニング・スピーキング）→「本文（Part 1～Part 4）」（リーディング）→「Route Map・Summary」（ライティング）→「Key Language」（文法解説）→「Exercises」（文法演習）→「Talks on the Topic」（会話文演習・スピーキング）だったのに対して，改訂版（平成30年）は「写真・Pre-Reading Questions・Let's Talk!」（導入・リスニング・スピーキング）→「本文（Part 1～Part 4）」（リーディング）→「Route Map・Summary」（ライティング）→「Key Language」（文法解説）→「Exercises」（文法演習①）→「Further Exercises」（文法演習②）→「Communication Strategies」（スピーキング）となり，文法演習が強化されて「Further Exercises」が追加されている。

大きな変更点は，各Partに新設された「Say It in Your Own Words」がある。これはPartごとに本文の内容を自分の言葉で説明する活動であり，Partの写真を活用してリテリングを行えば英語の表現力を養うことができる（図7）。また，会話文演習も「Talks on the Topic」から「Communication Strategies」となり内容の拡充が図られている。

図7　改訂版『POLESTAR English Communication Ⅱ』Say It in Your Own Words



（出所）松坂ヒロシ 編(2018)『POLESTAR English Communication Ⅱ』，p.18

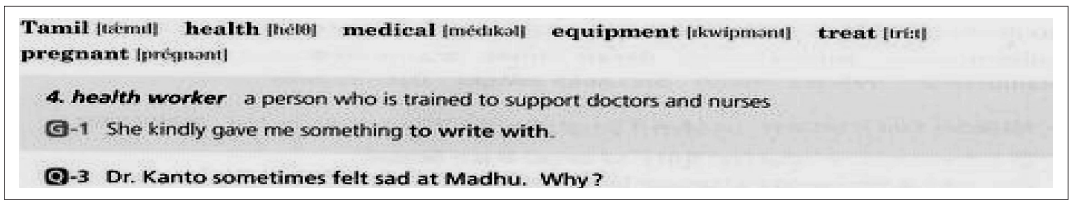
5．『CROWN English Communication Ⅱ』（三省堂）

改訂版（平成30年）の編修方針は，旧版（平成26年）に引き続き，21世紀を生きる思考力を育み，発信型コミュニケーションを志向する教科書として，「豊かな言語観の育成」（ことばの学習を通じて，思考力，表現力の育成を促し，豊かな言語観を育てる），「多様性の寛容」（世界の中の日本，世界の中の自分を知ることで，異なる文化を尊重する心を育む），「思考力・判断力・表現力」（英語の学習を通じて，自らの力で考え，判断し，表現する力を培う）を趣意としている。そして，今回の改訂では，「題材の刷新による一歩先を行く教科書づくりを目指す」，「生徒の思考力や知的好奇心に訴えるような題材を厳選し，それをもとにさまざまなコミュニケーション活動を組み込む」，「学習指導要領の要請に従って質量面での格段の充実を追求する」，「指示文の英語化と本課の傍注の慣用表現の英語によるパラフレーズを行う」を基本方針としている。

製本仕様は，改訂版（平成30年）の判型は変形Ｂ５判（縦24.5cm×横17.5cm）で旧版（平成26年）と同じである。頁数は，旧版（平成26年）が215頁だったのが改訂版（平成30年）は213頁となり２頁の減少となっている。本課（Lesson）と課外の読み物（Reading, Optional Lesson）の数は，改訂版（平成30年）も旧版（平成26年）もともに本課が10，課外の読み物が３つで増減はなかったが，本課（Lesson）のうち３つ，そして課外の読み物は１つが新しい教材に刷新されている。

本課（Lesson）の構成は，旧版（平成26年）では，「Take a Moment to Think」（Pre-Reading Questions）→「本文（Section 1～4）」（読解）→「Comprehension」（内容理解・要約完成）→「Activities」（リスニング・ライティング・スピーキング）→「Grammar」（文法解説）→「Exercises」（総合演習）だったのに対して，改訂版（平成30年）では，「Take a Moment to Think」（Pre-Reading Questions）→「本文（Section 1～4）」（読解）→「Comprehension」（内容理解・要約完成）→「Your Reaction」（リスニング・ライティング・スピーキング）→「Grammar」（文法解説）→「Exercises」（総合演習）となっており，旧版（平成26年）の「Activities」が改訂版（平成30年）では「Your Reaction」に改編されている。なお，改訂版（平成30年）では本文の傍注で取り上げる慣用表現や語句の説明は英語によるパラフレーズが行われている。例えば，「health worker」は旧版（平成26年）では「ヘルスワーカー，保健指導員」と記述されていたが，改訂版（平成30年）では「a person who is trained to support doctors and nurses」に改められている（図８）。

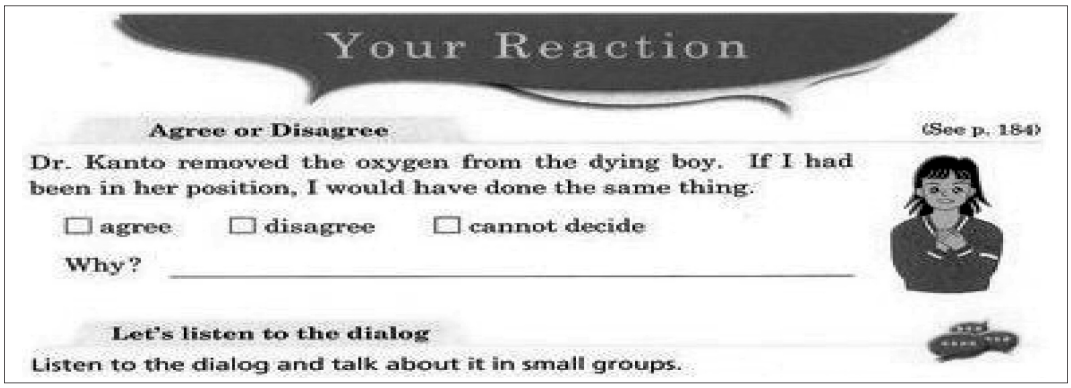
図８　改訂版『CROWN English Communication Ⅱ』傍注



（出所）霜崎實 編（2018）『CROWN English Communication Ⅱ』，p.52

大きな変更点は，旧版（平成26年）の「Activities」が改訂版（平成30年）では「Your Reaction」に改編されていることである。ともに本文のテーマに関連した4技能を統合的に扱う発信型の創造的な言語活動であるが，旧版（平成26年）の「Activities」では，「Listen」，「Write」，「Speak」の3つの活動に対して，改訂版（平成30年）の「Your Reaction」では，「Agree or Disagree」，「Let's listen to the dialog」，「Let's write about it」，「Anything more to say」の4つの活動に改編されており，スピーキングに重点を置いた統合的な発信型の言語活動に強化されている（図9）。なお，旧版（平成26年）の「Activities」では指示文が日本語であったのに対して，改訂版（平成30年）の「Your Reaction」の指示文は英語となっている。先に論じた本文の傍注における慣用表現や語句の英語による意味の説明（英英定義）とともに，指示文の英語表記も改訂版（平成30年）で注目すべき変更点であり，英語を英語で教える授業（オールイングリッシュによる授業）を円滑に活動することを支援する工夫が行われている。

図9　改訂版『CROWN English Communication Ⅱ』Your Reaction



（出所）霜崎實 編(2018)『CROWN English Communication Ⅱ』，p.59

Ⅳ．考　察

改訂版（平成30年）と旧版（平成26年）を合わせて5種類10冊の『English Communication Ⅱ』の分析を通して，いずれの教科書においても，現行「高等学校学習指導要領」を遵守しながらも，次期「高等学校学習指導要領」に向けた創意工夫のあるユニークな改訂版（平成30年）の教科書づくりに全力で取り組んでいることが明らかになった。変更点として注目されるのは，到達目標（CAN-DO）の設定と，スピーキングとライティングを強化するための技能統合型の言語活動の充実の2点である。

まず，到達目標（CAN-DO）の設定は，『Power On! English Communication Ⅱ』（東京書籍）の「Goals of the Lesson」，『UNICORN English Communication 2』（文英堂）の「TARGET」，『ELEMENT English Communication Ⅱ』（啓林館）の「Goals for the Lesson」として，CAN-DO形式による到達目標が各課（Lesson）の冒頭部分に掲げられている。これは次期学習指導要領の改訂の視点である「何ができるようになるか」（新しい時代に必となる資質・能力の育成）を具現化したものである。なお，

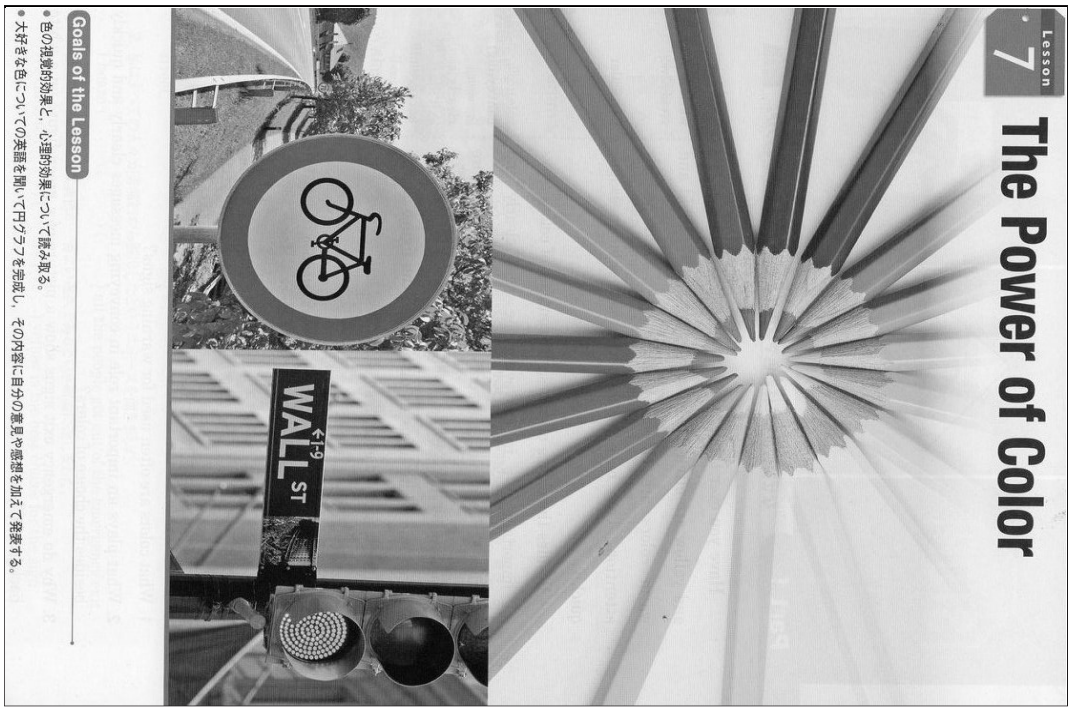
『CROWN English Communication Ⅱ』（三省堂）と『POLESTAR English Communication Ⅱ』（数研出版）には，教科書の紙面にはCAN-DO形式による到達目標は明示されていないが，教師用指導書やホームページにはCAN-DO形式による到達目標のサンプルが備えられていることを補足しておく。さらに，次期「高等学校学習指導要領」を見据えた取り組みとして注目されるのは，『ELEMENT English Communication Ⅱ』（啓林館）の「Self-Evaluation Grid」である。これは高等学校３年間で教科書（『ELEMENT English Communication Ⅰ』，『ELEMENT English Communication Ⅱ』，『ELEMENT English Communication Ⅲ』）を通して習得する到達目標の一覧となっている。高等学校卒業段階における英語力の成果指標を，国際的な基準であるCEFRのＡ２～Ｂ１レベル程度以上とすることは，次期「高等学校学習指導要領」の改訂作業に向けた教育課程部会外国語ワーキンググループの会議などで繰り返し議論されてきたことである。

そして，スピーキングとライティングを強化するための技能統合型の言語活動の充実についても，次期学習指導要領へ向けた「論点整理」や「答申」などで指摘されてきたことであるが，『Power On! English Communication Ⅱ』（東京書籍）の「Plus One!」（スピーキング）の新設されたことに加えて「Summary」（要約完成・ライティングとスピーキングの技能統合型活動）と「Challenge!」（リスニング・ライティングとスピーキングの技能統合型活動）の拡充，『UNICORN English Communication ２』（文英堂）では「COMMUNICATION」（表現・スピーキング）の新設，『POLESTAR English Communication Ⅱ』（数研出版）の「Communication Strategies」（スピーキング）と各Partに新設された「Say It in Your Own Words」（スピーキング），『CROWN English Communication Ⅱ』（三省堂）の「Your Reaction」（リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの技能統合型活動）への改編などが行われている。

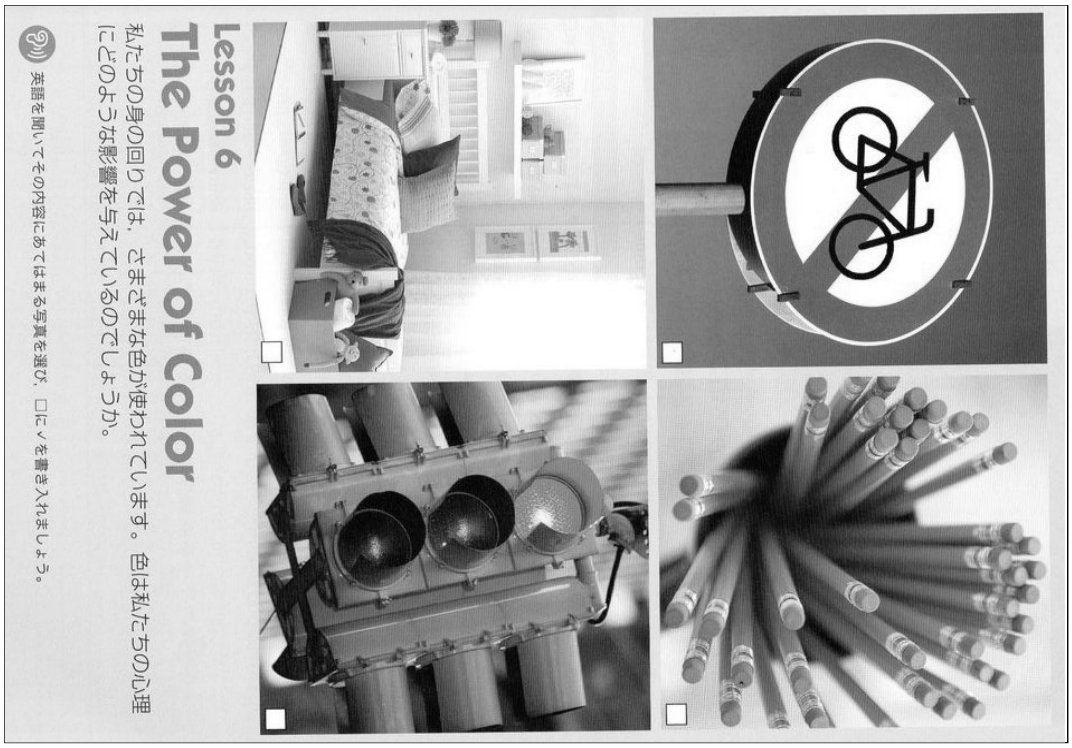
Ⅴ．　おわりに

本稿では，平成30年度から高等学校の「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業で使用されている改訂版（平成30年）『English Communication Ⅱ』と，平成29年度まで使用されてきた旧版（平成26年）『English Communication Ⅱ』を比較分析することで，改訂版『English Communication Ⅱ』にはどのような変更点があるのか，さらには，「何ができるようになるか」（新しい時代に必となる資質・能力の育成），「何を学ぶか」（育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の親切や目標・内容の見直し），「どのように学ぶか」（アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善）という次期学習指導要領の改訂の視点を意識した教科書づくりが行われているのかを考察することにあった。分析結果から，到達目標（CAN-DO）やCEFRに準じた自己評価（Self-Evaluation Grid）の設定や，スピーキングとライティングを強化する技能統合型言語活動の充実など，次期学習指導要領の改訂の３つの視点を明確に意識しつつ，現行学習指導要領の枠組みを遵守ながらも，創意工夫のあるユニークな教科書づくりが行われていることが明らかになった。さらに充実した内容となった改訂版『English Communication Ⅱ』を使用した教育実践による実り豊かな成果が大いに期待される。

資料１　改訂版・旧版『Power On! English Communication Ⅱ』課扉



（出所）浅見道明 編(2018)『Power On! English Communication Ⅱ』, p.91



（出所）浅見道明 編(2014)『Power On! English Communication Ⅱ』, p.77

資料 2　改訂版『ELEMENT English Communication Ⅱ』Self-Evaluation Grid（CEFR）

Self-Evaluation Grid (CEFR)

▶ CEFR とは，Common European Framework of Reference for Languages の略称で，語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格として，欧米で幅広く導入されつつあります。

▶ ELEMENT English Communication Ⅰ～Ⅲでは，Communication Builder で到達度を測ることができます。成果を確認し，英語力の伸びを実感してみましょう。

		Basic User		Independent	User	Proficient User	
	段階	A1	A2	B1	B2	C1	C2
UNDERSTANDING	Listening	▶ ゆっくりはっきりと話されれば，自分自身や家族，身の回りの事柄に関連した日常の身近な単語や基本的な言い回しを理解することができる。	▶（自分自身や家族の情報，買い物，地元の地域，学校などの）非常に身近な事柄に関する表現や，高い頻度で使用される語彙を理解することができる。 ▶ 短く，明瞭で簡単なメッセージやアナウンスの要点を理解することができる。	▶ 学校や余暇などで扱われる，なじみのある話題について，はっきりと標準的な話し方で話された内容の要点を理解することができる。 ▶ 時事問題や個人的に興味のある話題について，比較的ゆっくり，はっきりと伝えられれば，ラジオやテレビ番組の内容を理解することができる。	▶ おおむねなじみのある話題であれば，長いスピーチや講義を理解することができ，複雑な流れの議論についていくことができる。 ▶ ほぼすべてのテレビニュースや，時事問題を扱ったテレビ番組を理解することができる。 ▶ 標準的な英語が使われていれば，多くの映画の内容を理解することができる。	▶ 構成が不明瞭であり，事柄の関係性が暗示されているだけで，明示的になっていない場合でも，長いスピーチを理解することができる。 ▶ テレビ番組や映画を，あまり努力をしなくても理解することができる。	▶ 目の前で話されるものでも，放送されるものでも，相手の話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば，母語話者の速いスピードの発話でも，どのような種類の話しことばでも，難なく理解することができる。
	Reading	▶ 掲示やポスター，カタログの中にある，なじみのある名前やことば，非常に簡単な文を読み，理解することができる。	▶ 非常に短くて簡単な文章を読むことができる。 ▶ 広告や説明書，メニュー，時刻表など，簡単で日常的なものであれば，具体的で予測可能な情報を見つけることができる。 ▶ 短くて簡単な，個人的な手紙の内容を理解することができる。	▶ 非常に頻繁に使用される日常語や，仕事に関連する語で書かれた文章を理解することができる。 ▶ 個人的な手紙の中に書かれている出来事，気持ち，願いなどを理解することができる。	▶ 著者の独自の意見や立場が示されている，現代の問題についての記事や報告書を読むことができる。 ▶ 現代文学の散文を理解することができる。	▶ 事実に基づく，あるいは文学的な長い複雑なテキストを，文体の違いを楽しみながら理解することができる。 ▶ 自分の専門分野以外であっても，専門的な記事や長い技術的な説明書を理解することができる。	▶ 説明書や専門的な論文や文学作品など，抽象的で，文体的，言語的に複雑なほとんどすべての文章を容易に理解することができる。
SPEAKING	Speaking (Interaction)	▶ 話し相手が繰り返したり，言いかえたりしながらゆっくりと話したり，自分が言いたいことを言い表すのを助けてくれれば，簡単なやりとりを行うことができる。 ▶ 必要なことであったり，なじみのある話題について簡単な質問をしたり，答えたりすることができる。	▶ なじみのある話題や活動であれば，簡単で直接的な情報のやりとりができる。 ▶ 会話を続けられるほど理解ができるわけではないが，非常に短い社交的なやりとりを行うことはできる。	▶ 英語が話されている地域を旅行中に起こりうる，たいていの状況に対処することができる。 ▶ 家族や趣味，旅行や時事問題など，なじみがあったり，個人的に興味があったりする，日常生活に関連した話題であれば，準備をしていなくても会話に参加できる。	▶ ことばをことさら探さずに，流ちょうで自然な自己表現ができる。 ▶ なじみのある内容であれば，話し合いに積極的に参加し，自分の意見を説明したり，その意見を変えずに相手を説得したりすることができる。	▶ 適切な表現を意識して探さなくても，流ちょうに，かつ自然と自己表現ができる。 ▶ 社交上や職業上の目的にあったことば遣いを，柔軟にかつ効果的にすることができる。 ▶ 考えや意見を正確にまとめることができ，自分の発言を相手の発言と結びつけることができる。	▶ いかなる会話や議論でも無理なくこなすことができ，慣用表現や口語表現を熟知している。 ▶ 流ちょうに自己表現でき，細かな意味の違いを正確に伝えることができる。 ▶ もし表現の際に難しい課題があっても，周りの人にその困難を気づかれないように話を構成し，うまくつくろうことができる。
	Speaking (Production)	▶ 住んでいる場所や知っている人について，簡単な語句や文を用いて話すことができる。	▶ 自分の家族や周りの人々，生活状況，学歴について，一連の語句や文を使って話すことができる。	▶ 経験や出来事，夢や希望，抱負などを表現するために，語句を簡単な形でつなぎあわせることができる。 ▶ 意見や計画の理由や説明を，簡潔に述べることができる。 ▶ 物語の内容を伝えたり，本や映画のあらすじとその感想を表現することができる。	▶ 関心のある領域に関連する広範囲の話題について，明瞭かつ詳細に描写することができる。 ▶ さまざまな選択肢の長所と短所を挙げながら，時事問題についての意見を説明することができる。	▶ 複雑な話題に対し，明確で詳細に表すことができ，二次的なテーマを統合したり，意見を展開したり，適切な結論で論を終わらせることができる。	▶ 状況に合った文体で，また，聞き手に重要点を把握させ，記憶にとどめさせる効果的な論理構成を用い，明瞭でよどみのない説明をしたり，議論をすることができる。
WRITING	Writing	▶ クリスマスカードなど，短くて簡単なはがきを書くことができる。 ▶ ホテルの宿泊カードに，名前や国籍，住所などの情報を書き込むことができる。	▶ その場で必要な事柄に関連する，短くて簡単なメモや伝言を書くことができる。 ▶ 礼状などの簡単な手紙を書くことができる。	▶ なじみがあったり，興味があったりする話題に関して，簡単なまとまりのある文章を書くことができる。	▶ 興味のあることに関する広範囲な話題について，明瞭で詳細な文章を書くことができる。 ▶ エッセイや報告書を書いて情報を伝えたり，ある見解に対する賛成や反対の理由を述べたりすることができる。 ▶ 個人的に重要な出来事や経験に焦点を当てて手紙を書くことができる。	▶ ある程度長い文章できまざまな意見を表しながら，明瞭でよく構成されたテキストで自己表現できる。 ▶ 手紙やエッセイ，報告書で，重要であると考える点を強調しながら，複雑な話題について書くことができる。 ▶ 読み手を意識して適切な文体を選ぶことができる。	▶ 明瞭で自然な流れで，適切な文体を使いながら文章を書くことができる。 ▶ 読み手が重要な点に気づき，記憶できるよう，効果的で論理的な構成で問題を提示するような，複雑な手紙や報告書，論文を書くことができる。

ELEMENT Ⅰ	CB1	CB2,3	
ELEMENT Ⅱ		CB4	CB5,6
ELEMENT Ⅲ			CB7
			CB8

CB…Communication Builder

（出所）卯城祐司・磐崎弘貞 編（2018）『ELEMENT English Communication Ⅱ』, pp.4–5

資料３　改訂版『ELEMENT English Communication Ⅱ』Communication Builder（Level A2）

Communication Builder 4

４技能の到達度を測定しよう！

Listening

1. Listen to the conversation and answer the question.
   ⓐ Take a taxi.　ⓑ Go on the train.
   ⓒ Wait for the bus.　ⓓ Enter the museum.
2. Listen to the announcement and answer the question.
   ⓐ Sell their used books.　ⓑ Spend more than ten dollars.
   ⓒ Show their student ID.　ⓓ Come to the store next week.

Reading

Read the email below and answer the question. (5 min.)

From: Alan Lenston <AlanL@element.com>
To: Caroline Lenston <CarolineL1014@element.com>
Date: July 29, 2018
Subject: Miami

Hi Mom,

Beth and I are having a great time in Miami, Florida. On the first two days here we went to the beach and swam all day. On the third day we went parasailing. At first I was scared, but Beth told me how much fun she had last time she went. I'm glad I tried it because it felt like I was flying!

The next day, Saturday, we visited the Florida Everglades. In the morning, we took a canoe through mangrove tunnels. We also saw some beautiful birds and alligators there. In the afternoon, we rode in a boat to see dolphins. It was so great seeing these animals in their natural habitats. I'm so glad that animals here are being protected.

Tonight we are going to eat out at a Japanese restaurant, and tomorrow we plan on taking a break and relaxing at the hotel. On Tuesday we have tickets to see a baseball game. Beth is excited about seeing the baseball game, but she is even more excited because I promised we would go shopping for souvenirs before that. We've had such a great time already, and I can't believe we will be coming home on Friday. Anyway I will show you all the photos we took!

See you soon.

Alan

Level A2

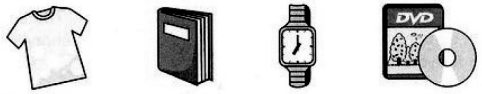
Choose two correct sentences.
ⓐ On the third day, Alan and Caroline went to the beach and swam all day.
ⓑ Alan and Beth couldn't go parasailing because they were too afraid.
ⓒ Alan and Beth enjoyed seeing animals in the Florida Everglades.
ⓓ On the day after Alan wrote this email, Alan and Beth would rest at the hotel.
ⓔ Beth was very excited to go shopping for souvenirs, but she was not interested in the baseball game.

Speaking

Talk about one of your family members or friends. (Preparation: 1 min., Speaking: 1 min.)

Writing

Your friend, Tom, gave you a present. Choose the present you got from him and write a letter to him thanking him for the present giving reasons.
(about 50 words, 10 min.)



Dear Tom,

Sincerely,

（出所）卯城祐司・磐崎弘貞 編（2018）『ELEMENT English Communication Ⅱ』, pp. 74-75

資料４　改訂版『ELEMENT English Communication Ⅱ』Communication Builder (Level B1)

Communication Builder 5

４技能の到達度を測定しよう！

Listening

1. Listen to the conversation and choose the topic they are talking about.
   ⓐ Computers.
   ⓑ Cell phones.
   ⓒ Video games.
2. Listen to the interview on the radio and answer the question.
   ⓐ He wants young people to accomplish something.
   ⓑ He wants many people to know how wonderful nature is.
   ⓒ He wants people to think about how to live on the Earth.

Reading

Read the memo below and choose the best answer from among the four choices. (3 min.)

Memo

To: All students

From: School Health Department

Welcome back from winter holidays. We are entering the time of year when many students get the flu. Since your study is very important, and the final exam is coming soon, you may think you have to come to school and study hard no matter how bad you feel. If sick students come to school, however, they will spread their germs to other students. Don't feel that you have to come to school. Don't feel that other students or teachers will think that you are not trying hard. If you feel unwell or have flu symptoms, visit a doctor before returning to school. You have to consider your health first. So get well, and keep the rest of the students happy and healthy, too.

Level B1

1. What advice is given here?
   ⓐ Be sure to come to school.
   ⓑ Go to the hospital if you are sick.
   ⓒ Be careful not to get the flu.
   ⓓ Study hard for the final exam.
2. What does the memo imply?
   ⓐ The students are not willing to take a day off.
   ⓑ The School Health Department is very influential.
   ⓒ It will soon be vacation time.
   ⓓ All the students need to see a doctor immediately.

Speaking

Talk about a book you have read or a movie you have seen before. First, talk about the content of it and then talk about what you thought of it.

(Preparation: 1 min., Speaking: 2 min.)

Writing

Write a letter to your friend. Write about your school trip. Describe where you went and what you did. If you have never been on a school trip, describe where you want to go and what you want to do. (about 60 words, 10 min.)

Dear _____,

_____

_____

_____

_____

_____

_____

_____

_____

Sincerely,

_____

（出所）卯城祐司・磐崎弘貞 編(2018)『ELEMENT English Communication Ⅱ』, pp.126-127

注

⑴　文部科学省の調査（平成27年度 公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査）によれば，全国の公立高等学校（普通科）で「コミュニケーション英語Ⅱ」を３年次に開設している学校が21.5％となっている。

⑵　平成27年８月に公表された教育課程企画特別部会の「論点整理」には，「『英語を使って何ができるようになるか』という観点から一貫した教育目標（４技能に係る具体的な指標の形式の目標を含む）を設定し，それに基づき，英語を『どのように使うか』，国際共通語としての英語を通して『どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか』という観点から，児童生徒が将来の進路や職業などと結び付け主体的に学習に取り組む態度等を含めて育まれるよう，学習・指導方法，評価方法の改善・充実を図っていくことが求められる。」として，「国が示す教育目標を踏まえ，各学校が具体的な学習到達目標（CAN-DO形式）を設定し，児童生徒にどのような英語力が身に付くか，英語を用いて何ができるようになるかなどが明確になり，指導と多面的な評価の一体化とそれらの改善が図られる。」と記されている。さらに，高等学校段階では，「授業を英語で行うことを基本とするとともに，必履修も含めた４技能を総合的に扱う言語活動を中心とした科目，特に課題がある『話すこと』及び『書くこと』によって発信する能力を更に強化する技能統合型の言語活動を充実するための科目構成の見直しを行う。」としている。

⑶　文英堂の教科書のタイトル表記は，（他の出版社とは異なり）ローマ数字を用いる「English Communication Ⅱ」ではなく，算用数字を用いて「English Communication 2」としている。本稿では出版社のタイトル表記のままとしている。

⑷　改訂版（平成30年）『ELEMENT English Communication Ⅱ』におけるSelf-Evaluation GridのListening，Reading，Speaking（Interaction），Speaking（Production）は，CEFRのSelf-Assessment Gridの形式（Self-Assessment Gridでは，Listening，Reading，Spoken interaction，Spoken production，Writing）に準ずるものとなっており，５種類のタスクは多層的な領域と考えられており，コミュニケーション能力の社会言語的側面，語用論的側面を含んだ多面的なものとなっている。CEFRとは，Common European Framework of Reference for Languages（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり，欧州評議会（Council of Europe）が長年の研究と実証実験の末に開発した言語能力を評価する指標である。等級にはＡ１，Ａ２，Ｂ１，Ｂ２，Ｃ１，Ｃ２の６段階に分かれており，その言語を使って何ができるかという形式で具体的に記述している。所期の目的はヨーロッパのすべての言語で共通で使える学習状況の評価や指導を提供するために考案されたものであったが，Oxford University PressやCambridge University Pressなど大半の出版社がESL教材のレベル表示に使用しており，今や外国語学習における国際指標となっている。CEFRが目指している姿は，自律的社会的成員（autonomous social agent）であり，自ら学習を管理できる社会的成員としての個人である。

⑸「Communication Builder」は『ELEMENT English Communication』シリーズに８つの段階が設定されている。改訂版（平成29年）『ELEMENT English Communication Ⅰ』に「Communication Builder 1：Level A1」～「Communication Builder 3：Level A2」，改訂版（平成30年）『ELEMENT English Communication Ⅱ』に「Communication Builder 4：Level A2」～「Communication Builder 6：Level B1」は，改訂版（平成31年）『ELEMENT English Communication Ⅲ』に「Communication Builder 7：Level B1」～「Communication Builder 8：Level B2」が配置されている。

参考文献

中央教育審議会（2016），「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」文部科学省.

Council of Europe（2001）. *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment*. New York: Cambridge University Press.

文部科学省（2018），『高等学校学習指導要領』（平成30年３月告示）文部科学省.

文部科学省（2016a），「平成27年度 公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について」文部科学省.
文部科学省（2016b），「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」文部科学省.
文部科学省（2015a），「教育課程企画特別部会 論点整理」文部科学省.
文部科学省（2015b），「生徒の英語力推進プラン」文部科学省.
文部科学省（2013），「各中・高等学校の外国語教育における『リスト』の形でのCAN-DO学習到達目標設定のための手引き」文部科学省.
文部科学省（2011），「今後の英語教育の改善・充実方策について－グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言－」文部科学省.
小串雅則（2011），『英語検定教科書』三省堂.
吉島茂・大橋理枝 編（2004），『外国語教育Ⅱ』朝日出版社.

分析に使用した教科書

浅見道明 編（2018），『Power On! English Communication Ⅱ』東京書籍.
浅見道明 編（2014），『Power On! English Communication Ⅱ』東京書籍.
市川泰男・高橋和久 編（2018），『UNICORN English Communication 2』文英堂.
市川泰男・高橋和久 編（2014），『UNICORN English Communication 2』文英堂.
松坂ヒロシ 編（2018），『POLESTAR English Communication Ⅱ』数研出版.
松坂ヒロシ 編（2014），『POLESTAR English Communication Ⅱ』数研出版.
霜崎實 編（2018），『CROWN English Communication Ⅱ』三省堂.
霜崎實 編（2014），『CROWN English Communication Ⅱ』三省堂.
卯城祐司・磐崎弘貞 編（2018），『ELEMENT English Communication Ⅱ』啓林館.
卯城祐司・磐崎弘貞 編（2014），『ELEMENT English Communication Ⅱ』啓林館.